

報道関係各位

公益財団法人 笹川スポーツ財団

10代・成人の実施率、スポーツ指導者、競技団体や国体での活用状況、オリンピック・パラリンピックのボランティア体制など スポーツボランティアの現状が明らかに

文部科学省委託調査『スポーツにおけるボランティア活動活性化のための調査研究
(スポーツにおけるボランティア活動を実施する個人に関する調査研究)』

笹川スポーツ財団（所在地：東京都港区 理事長：小野清子 以下：SSF）では、このたび平成26年度文部科学省委託調査『スポーツにおけるボランティア活動活性化のための調査研究（スポーツにおけるボランティア活動を実施する個人に関する調査研究）』を取りまとめました。ラグビーワールドカップ2019や2020オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を数年後に控え、現在、スポーツボランティアの重要性は高まっています。しかしながら、我が国におけるスポーツボランティアの実施率は近年6～8%で推移し、その活用は十分ではありません。本調査では、個人の活動の実態を6つの調査研究を実施・把握。スポーツボランティア活動の活性化を検討するための基礎資料の取得を目的としました。主な調査結果は以下のとおりです。本報告書の全文はSSFのウェブサイトでご覧いただけます。

【主な調査結果】

- ① 成人の過去1年間のスポーツボランティア実施率は6～8%で横ばい傾向。一方、スポーツボランティアと自覚せずに活動している、無自覚のスポーツボランティアの実施率は16%。
- ② ボランティアとしてスポーツ指導をする指導者*の割合は7割。
*指導者：日本体育協会の公認スポーツ指導者[指導員・ジュニアスポーツ指導員]及び日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導員[中級]
- ③ 主催大会において、役職員以外の運営スタッフを活用していない都道府県競技団体は5割、都道府県障害者スポーツ競技団体は3割であった。
- ④ 長崎がんばらんば国体・長崎がんばらんば大会では、「大会運営」「情報支援」「選手団サポート」「学生広報」の4種類のスポーツボランティアが大会を支援。
- ⑤ ロンドン2012オリンピック・パラリンピック時のスポーツボランティア運営体制を把握・図式化。
- ⑥ 「ボランティア休暇」を付与している企業は2.8%。制度があっても取得率が低いという現状も。

【担当者コメント】

本事業は文部科学省が15年ぶりに実施したスポーツボランティアに関する調査研究を、当財団が受託したものである。個人に関する6つの調査研究を実施した結果、今後の活動活性化のためには「スポーツボランティアの正しい理解と浸透」「地域のスポーツイベントを活動のきっかけにすること」「リーダーやコーディネーター役となる人材の発掘・育成」等の必要性が明らかとなった。スポーツボランティアについては継続的に取り組むことの重要性が再確認できた。

【笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 副主任研究員 工藤 保子】

この件に関するお問合せ先
笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所：工藤、澁谷
TEL：03-5545-3303 info@ssf.or.jp

■ 調査概要

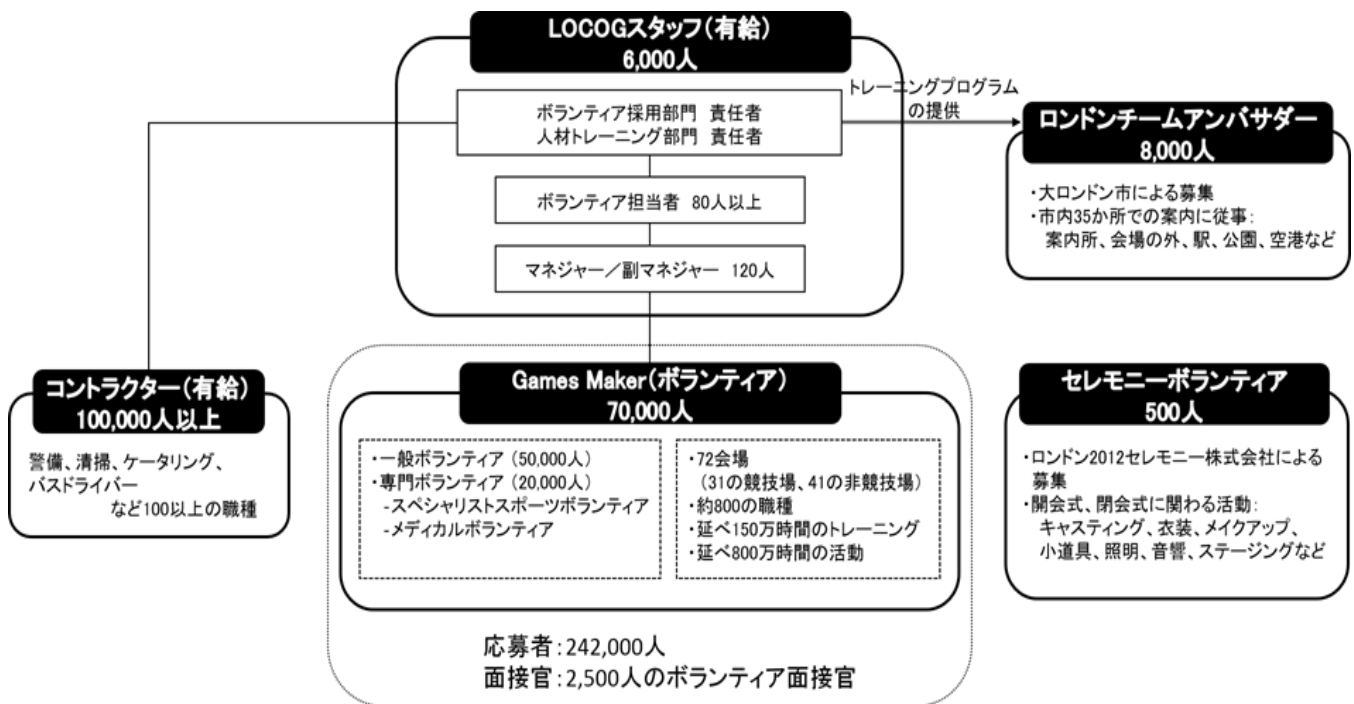
正式調査名：平成 26 年度文部科学省委託調査『スポーツにおけるボランティア活動活性化のための調査研究（スポーツにおけるボランティア活動を実施する個人に関する調査研究）』

個別調査名：①個人のスポーツボランティアに関する調査／②公認スポーツ指導者の活動状況に関する調査／③都道府県の競技団体・障害者スポーツ競技団体等の運営に関する調査／④国内大規模大会における事例調査／⑤海外事例調査／⑥企業のボランティア休暇制度に関する調査

【主な調査結果】

<⑤海外事例調査>

ロンドン 2012 ボランティアの運営体制図



<ボランティアの運営上の工夫>

- ・ゲームズメーカー[※]の募集から採用、トレーニングの開始まで約1年半の期間があるため、応募者のモチベーションを維持する必要があり、定期的に個人名入りのメールを配信するなど、コミュニケーションを取る方法を工夫した。
- ・不採用になった約17万人への配慮も重要と考えていた。最後まで誰が補充要員となり得るかを考えておく必要があり、オンラインのボランティアポータルを通じて情報提供し、関係を維持できるよう努めていた。また、フェイスブック (Facebook) やツイッター (Twitter) などのソーシャルメディアで情報が発信されることも考え、ロンドン 2012 に好印象を持ち続けてもらえるような配慮もした。
- ・コントラクターとゲームズメーカーの活動内容、役割は明確に線引きしている。例えば、体育館の床面の清掃は、クリーナーを使用する場合はコントラクターが、モップを掛ける場合はゲームズメーカーが行っていた。また、ゲームズメーカーへの指示は、ロンドンオリンピック・パラリンピック組織委員会 (LOCOG) のマネジャーが行い、コントラクターからは指示をしないよう指揮系統も明確であった。
- ・オリンピックとパラリンピックのボランティアは、基本的には同じマネジメントで実施した (パラリンピックは専用のトレーニングあり)。

※ゲームズメーカー (Games Maker)：ボランティアが「実際にゲームを作る人である」という意味を込めて、ロンドン 2012 で「ゲームズメーカー」という名称が付けられた。

『スポーツボランティア・運営ガイドブック ～スポーツイベントのボランティアを知る～』併せて刊行

調査の結果を踏まえ作成した本ガイドブックは、スポーツイベントに特化し、スポーツボランティアの運営者に向けて、募集から活動終了までのボランティア運営の流れやボランティアやリーダーの養成、ボランティア運営上の留意点などをわかりやすく解説しています。主な内容は以下のとおりです。また、ガイドブックの全文はSSFのウェブサイトでご覧いただけます。

【 概 要 】



【目次】

- ◆ そもそもスポーツボランティアって何？
- ◆ なぜスポーツイベントではボランティアが必要？
- ◆ 具体的に募集から活動終了までスポーツイベントでのボランティア運営の流れを見てみましょう
- ◆ さらにボランティアやボランティア・リーダーの養成にも目を向けましょう
- ◆ ゴールはボランティアのリピーターを増やすこと
- ◆ イベント主催者のためのスポーツボランティア Q&A
- ◆ ～スポーツイベントを成功させるために～ イベント主催者は意識改革が必要です
- ◆ ボランティアのためのスポーツボランティア Q&A
- ◆ 主催者・ボランティアの声 イベント主催者やボランティアの気持ちや体験談を伺いました

著作権者： 文部科学省
スポーツ・青少年局
スポーツ振興課
発行元： 笹川スポーツ財団

